

# 新庄市議会 行政視察報告書

会派又は議員名 市民・公明クラブ

1. 視察日程 平成27年 7月29日(水)～31日(金)
2. 調査事項(視察先)
  - (1) こどものまち推進事業について (沖縄県沖縄市)
  - (2) 沖縄こどもの国 (沖縄県沖縄市)
  - (3) JAおきなわ 中部ファーマーズマーケット (沖縄県沖縄市)  
道の駅かでな (沖縄県嘉手納町)
  - (4) 山形の塔 普天間飛行場 公設市場 (沖縄県)
3. 視察参加議員  
小野周一 下山准一 高橋富美子 佐藤卓也 山科正仁

## 調査事項(1)

こどものまち推進事業について(沖縄県沖縄市)

人口：139,310人 面積：49km<sup>2</sup>

### (視察事項)

- ・こどものまち推進アクションプログラム
- ・こども学講座
- ・こどものまち宣言

以上3点のこれまでの経緯と効果・今後の展開について

■視察日時 平成27年 7月30日(木)  
午前 9時00分 ～ 10時30分

### ■所 感

もともと子育ては、地域社会における助け合いを前提に行われてきましたが、高度経済成長とともに、助け合いが希薄になり、現在では合計特殊出生率の低下に伴う少子化をはじめ、子どもの虐待やいじめなど、子どもを取り巻く厳しい環境が社会問題となっております。そのようななか子どもの最善の利益の保障などを基本原則とするこどもの権利の世界基準「児童の権利に関する条約」が平成6年に日本が批准しました。この条約の理念のもとに子どもたちが夢にむかって元気にたくましく育つ環境づくりを目的とする「こどもまち宣言」とし、これに伴い平成20年度を「こどものま

ちづくり元年」と位置づけ、沖縄市こどものまち推進プランを策定しました。こどものまち宣言では宣言自体が歌となり、多くの人々の心に届くように詩の形式で沖縄出身のシンガー・キロロさんに作曲してもらい、CD化にして学校に配布しております。また、ノートやバッチ・のぼりなどを作成し普及にも力を入れております。

ネットワークづくりや人づくりのための「こども学講座の開催」や場づくりのための「えほんの国の設置」など各事業のアクションプログラムも同時に示し、第一歩を踏み出しました。

平成23年度に総合計画において、「こどものまち」で一つの都市像を形成し、子育てや教育、子ども文化など多岐に渡る子ども関係施策の体系化を図り、平成24年度でこどもや子育ての支援に関するきめ細やかなサービスを一体化・総合的に提供する組織体制として新たに「こどものまち推進部」を設置し、こどもまちを推進する体制を整えました。この推進部は○こども企画課○保育・幼稚園課○こども課程課○こども相談・健康課に分かれ、こどもの誕生から学童期を一貫的にサポートしております。

平成25年度に推進する基本的な考え方を整理し、取り組むべき重点プログラムや重点事業を位置づけるため、沖縄市こどものまち推進アクションプログラムを策定しました。基本理念をこどもたちの主体性な活動を応援し、こどもたちが夢にむかって元気にたくましく育つ環境をつくるとし、1、こどもの最善の利益を保障する 2、こども文化を育む 3、安心して子育てができる環境をつくる 4、個性や可能性を育む教育を推進する といった考えのもと事業が展開されております。

また、‘こどもたちの声を聴く‘ために「こども議会」を開き毎年継続して行っております。目的は成長過程にあるこどもたちが、自分たちの住むまちや地域の文化に関する学習をふまえ、社会の成員として自ら意見を表明し、まちづくりに参加する場としており、この取り組みはミーティングや県内研修・沖縄市議会傍聴・宿泊研修を重ね、数ヶ月をかけて本番に挑みイベントではなく本気で街づくりへの提言を発表する非常に意味深い取り組みだと感じます。

新庄市においても沖縄市と同様にこどもは宝であり、地域が一体となって育てていき、行政ももっと子供に対して取り組まなければならないと感じました。

## 調査事項（2）

沖縄こどもの国 視察

### ■所 感

沖縄こどもの国におけるネイチャーランド事業（動物園）は教育機関と連携し、飼育実習・職場体験の受け入れや学校事業の一貫としての利用や教職員の免許更新講習会の開催等、教育的役割を強化・充実させております。チルドレンズセンター事業では市民参画を推進し学生や地域人材、各種専門家をコーディネートし、ボランティア活動、ワークショップ、講演会、イベント等、様々なプログラムを開催し事業を展開

しております。今回の視察ではワンダーランド事業を軸として行いました。ワンダーランド事業（ワンダーミュージアム）は「理解と創造は驚きに始まる」というコンセプトのもと、こどもたちの可能性を信じ、こどもたちが、自ら不思議や驚きを見つけることが出来るミュージアムです。中には実際に触れて遊んで体験できるハンズオン展示と、感じることを、考えることを、表現することを大切に育むワークショップを体験できます。実際に自分でも「触れる地球」に触れ、地球を動かし、地球の姿を知ったり、「影絵テーブル」では影絵を作り生き物が動き出す仕掛けなど大人でも十分に楽しめる展示がたくさんあり、1日いても足りないくらいの充実振りでした。体験プログラムではこどもたちのひらめきを育む仕掛けを考えており、何回着ても空きさせない工夫が随所に見られ、職員の方のアイデアに感激しました。最上広域においても教育研究センターがあり平成27年9月に旧昭和小学校に移転し理科・科学教育施設に特化し事業を行っております。広域ではあるもののワンダーミュージアムのようなソフト面を参考にし、こどもたちの遊んで学べる場を研究・実践をしていくべきと思います。

### 調査事項（3）

J Aおきなわ 中部ファーマーズマーケット

#### ■所 感

J Aおきなわが運営する産直施設中部ファーマーズマーケットで平成19年にオープンした。施設から生産者へ1日4回販売情報を流し、生産者はそれを基に追加するなど、連絡を密にし、常に品数豊富にしている。平成20年からは最上産米の取り扱いを始め、J A新庄が米を送って、消費者のニーズに応じております。地元の特産であるマンゴーなどの果樹や加工品など品揃えを多く並べています。また専用の宅配便コーナーを設置し、すぐに配送できるようにし、観光客にもしっかり対応しております。輸送コストもかかり東北の物産がほとんどない状態ですが、新庄最上の米のみならず、民間同士の交流を活発にし、加工品も含めた物産交流をもっと工夫しながら拡大する必要があると感じました。

道の駅 かでな

#### ■所 感

嘉手納町は、総面積の約83%が米軍基地となっている。そのため、残された地域に町民がひしめきあった生活を余儀なくされており、生活環境をはじめ、都市基盤の整備や産業の振興を進める上で、大きな制約となっている。その中で道の駅は、一階に農業をする耕作地も少ないため、農作物直売所が併設されておりませんが、地元のお土産が買える物販店や休憩室があり、二階にはレストラン、三階の学習展示室ではパネルとモニターを使って、地域の歴史を分かりやすく学べ、沖縄の歴史や日常風景

を感じることができます。四階にある屋上の展望場からは、極東最大規模である嘉手納空軍基地を一望することができます。基地のある暮らしは新庄市ではありえない話ですが、自治体の特徴である基地を観光に最大限に活用し、地域の物産を購入し、美味しいものを食べるだけでなく、沖縄の本当の姿を目と耳で体験できる道の駅かでの特徴を活かす意味でも参考にし、道の駅建設の際には役立てていかなければならないと感じました。

#### **調査事項（４）**

山形の塔

##### **■所 感**

今年には戦後70年となる節目の年、最後の激戦地となった沖縄県に山形県出身者約4万人が眠る「山形の塔」や世界平和のメッカとしての「沖縄平和祈念塔」や歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を広く内外にのべ伝え、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んでいる「平和の礎」など見学し、戦争の悲惨さを肌で感じ改めて恒久平和の大切さを感じました。

普天間飛行場

##### **■所 感**

嘉数高台公園の展望台から宜野湾市全体を眺めてきました。実際に見ると真ん中に市の四分の一を占める大きな普天間飛行場があり、その周りに市民の方が住む住宅や大学が広がっておりました。世界で一番危険な基地という意味が肌で感じられ、オスプレイ配備による騒音やヘリの墜落などの様々な問題、基地の移設など改めて沖縄県民の方に多くの負担をかけているのだと感じました。